

第1章 研究の概要





生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり

～児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築～（1年次／2年計画）

研究の概要

1 研究主題設定の理由

（1）本校の研究の歩み

本校では、令和元年度から「生涯学習力」に焦点を当てた研究を進めてきた（図1）。令和元年度、令和2年度の2年間は、「生涯学習力」を「主体的にヒト・モノ・コトに関わり生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と定義し、「生涯学習力」を高める教育課程の編成に向けて取り組んだ。令和3



図1 本校の研究の歩み

年度からは、児童生徒の「生涯学習力」を高めるための基盤整備について3つのワーキンググループを立ち上げ、「生涯学習力」を高めるために必要な要素や学習内容を検討した。さらに令和4年度は、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて取り組み、授業づくりの視点として「生涯学習力」を高めるための要素となる「わかはとモデル」を作成した。この「わかはとモデル」を活用して学部間のつながりを考慮した単元構想や指導内容を検討したり、児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容を見取ったりした。特に、学部を越えて意見交換を行う「つながりミーティング」において「わかはとモデル」を活用したことで、教師は各学部の取組や児童生徒の成長過程について理解を深めることができた。

本校の特徴的な取組である「私の応援計画」（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2018）は、その作成を通して児童生徒自身が学びの主体であることを自覚できるよう、児童生徒が自分の意思を表現できる環境を構築し、児童生徒たちの「思い」「願い」「夢」を大切にしたい個別的教育支援計画である。平成29年度から30年度までの2カ年、「本人主体の個別的教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」を研究主題として研究に取り組んでいる（図1）。令和4年度は、この「私の応援計画」を基盤としながら、「わかはとモデル」を活用して「生涯学習力」を高める授業づくりを行ってきた。児童生徒たちの「思い」や「願い」、「夢」から生涯にわたって学び続ける姿をイメージしつつ、「わかはとモデル」を活用して児童生徒の「今ここにある姿」を見取ってきたことで、教師は児童生徒の「分かった」「できた」といった学びの結果だけではなく、授業の中で「児童生徒がどのように学んだか」「児童生徒が学びの結果から何を学んだか」といったところに目を向けられるようになった。そして、児童生徒の学びが学校・家庭・地域の中でどう役立っているのか、どうつながっていくのかを理解することが、「生涯学習力」を高める授業づくりを進める上で重要であると認識した。一方で、毎年の職員の異動により新しく代わっていく職員が「私の応援計画」の目的や意図、その意義の押さえまでは十分に引き継がれずに、活用することのみが継続している現状もみられる。

（2）令和4年度の成果

学部ごとの「生涯学習力」を高める授業づくりのポイント、児童生徒の変容、教師の関わり方の変容については、次の通りである。

「生涯学習力」を高める授業づくり

- 【小学部】余暇につながるアイデアを出し合う授業づくり
- 【中学部】生徒同士で解決方法を考えさせる授業づくり
- 【高等部】卒業後の学びを見据えた授業づくり

児童生徒の変容

- 【小学部】エンジョイタイム（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2023）を楽しみにし、初めての活動でもやってみようとする姿や、自分なりの楽しさを見付ける姿などが見られるようになった。
- 【中学部】生活単元学習の授業を通して友達とチャレンジする姿や、自信をもって学級外の友達へ発表する姿、失敗してもまた挑戦する姿、分からないことは聞いたり、調べたりする姿などが見られるようになった。
- 【高等部】Dスタディ（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2022）の授業を通して自分から発信する姿や、いろいろな解決方法があることを知る姿、自分で解決できない場面で誰かに頼る姿など、生徒たち同士で必要な手段を使って解決しようとする姿が増えた。

教師の関わり方の変容

教師が児童生徒に正解を提示するのではなく、寄り添うスタンスで支援し、児童生徒の主体性に任せたり、考えさせたりする場面を設定するようになり、授業のスタイルが変化した。

（3）令和4年度の課題と令和5年度取組

学校生活の中の「今」と「将来」について職員が見据え、さらには卒業後の「将来」をつなぐことができるような授業実践が必要であると考え、「生涯学習力」の研究を推進してきたことで、「生涯学習力」の素地を高めるためにはどうしたらよいかを検討、授業づくりに反映し、少しずつ「生涯学習力」を高めるための授業スタイルや教師の支援方法などが明らかになってきたが、まだ場面が限定的であったり、つながりが見えづらかったりする課題がある。

これらの課題を解決するために、以下の方策を考えた。

- ・授業づくりに更に活用できるように「わかはとモデル」の分析と改善を行い、再提案する。
- ・「私の応援計画」に「わかはとモデル」の要素を取り入れ、面談に活用できるようにする。
- ・学校の授業の「今」の実践がどの「将来」につながっているか、関係性をより大事にする。
- ・「生涯学習力」について保護者に理解してもらえよう、定期的に情報提供、共有を図る。
- ・卒業生が本校で学んだことをどのように生かし、「生涯学習力」を発揮しているのか検証する。

以上のことから、これまでの研究成果を基に、卒業後も学び続けようとしたり、自分から学ぼうとしたりする意欲を育み、生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくりを通して児童生徒の「生涯学習力」の広がりや深まりの検証をしたいと思い、本主題を設定した。

特に、1年次はこれまでの研究成果をつなげる「わかはとシステム」の構築を目指す。この「わかはとシステム」は、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すとともに、APDCAサイクル（PDC AサイクルにA：アセスメントを含めたもの）で検証し、改善していくものである（図2）。

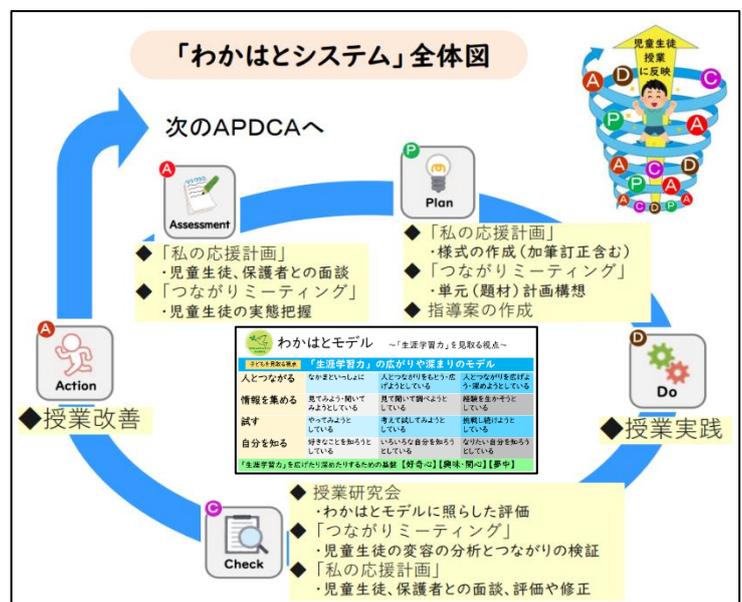


図2 わかはとシステム関連図

2 研究の目的

これまで、児童生徒の生涯にわたる豊かな学びに向け、「生涯学習力」に関する実践研究を推進し、「生涯学習力」を高めるための授業実践をしてきた。しかし、日々の授業における児童生徒の学びの継続性や関連性についての検証は限定的であり、「生涯学習力」が高まったと示すための検証については不十分であった。このことから、日々の授業を通じた児童生徒の姿が、どのようにヒト・モノ・コトにつながっていき変容したのかについて空間軸と時間軸で見取っていくことで、児童生徒の「生涯学習力」の高まりに寄与していることを明らかにしたいと考えた。

3 研究の内容と方法

上記の目的を達成するために、2年計画で以下の内容と方法を設定した。

(1) 令和5年度

- ①「わかはとモデル」の分析と改善
 - ・「生涯学習力」を高めるための要素として作成した「わかはとモデル」を『「生涯学習力」を見取る視点』として児童生徒の実態把握や生涯学習力の高まりを見取る際に活用できるように、更に分析と改善を図る。
- ②「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用
 - ・教師側が「わかはとモデル」の視点をもちながら、「私の応援計画」の児童生徒との面談を行う。
- ③校内外のつながり、卒業後のつながりの検証
 - ・「つながりミーティング」を実施し、学部間のつながり、学部を越えたつながりを全校縦割りで検討や検証、情報の共有をする。
 - ・「障害のある方の豊かな学び」とは、どのようなことなのかを卒業生とその保護者に対するアンケート調査から明らかにする（アンケート調査Ⅰの実施）。
- ④家庭や地域との連携
 - ・家庭や地域に対して定期的に情報提供等を行い、「生涯学習力」について理解を図るようにする。
 - ・保護者に対して生涯にわたる豊かな学びに関するアンケート調査を実施する。
- ⑤「エピソードシート」の活用
 - ・単元終了ごとに「エピソードシート」を作成し、単元の振り返りを丁寧に行い、児童生徒一人一人の「生涯学習力」がどのような場面で広がっているか様々な視点から見取るようにする。

(2) 令和6年度

- ①「わかはとシステム」の活用と改善
 - ・「私の応援計画」、「わかはとモデル」、「つながりミーティング」と授業実践がAPDCAサイクルでつながり、機能しているかを検証する。また、教育課程の編成に向けて必要に応じて教育資料の修正や改善を図る。
- ②「エピソードシート」の分析と改善
 - ・「生涯学習力」がどのように広がっているか分析し、必要に応じて改善する。
- ③「私の応援計画」への「わかはとモデル」の視点活用
 - ・「わかはとモデル」の視点を活用して「私の応援計画」を整理する。
- ④生涯にわたる豊かな学び探求（アンケート調査Ⅱの実施）
 - ・進路先である事業所や福祉施設などから、障害のある方の豊かな生活や学びの在り方、課題等について聞き取り、分析をする。

4 わかはとシステムの関連図

「わかはとシステム」は、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すとともに、APDCAサイクルで検証し、改善していくものである。以下は、「わかはとシステム」の関連図を示したものである。

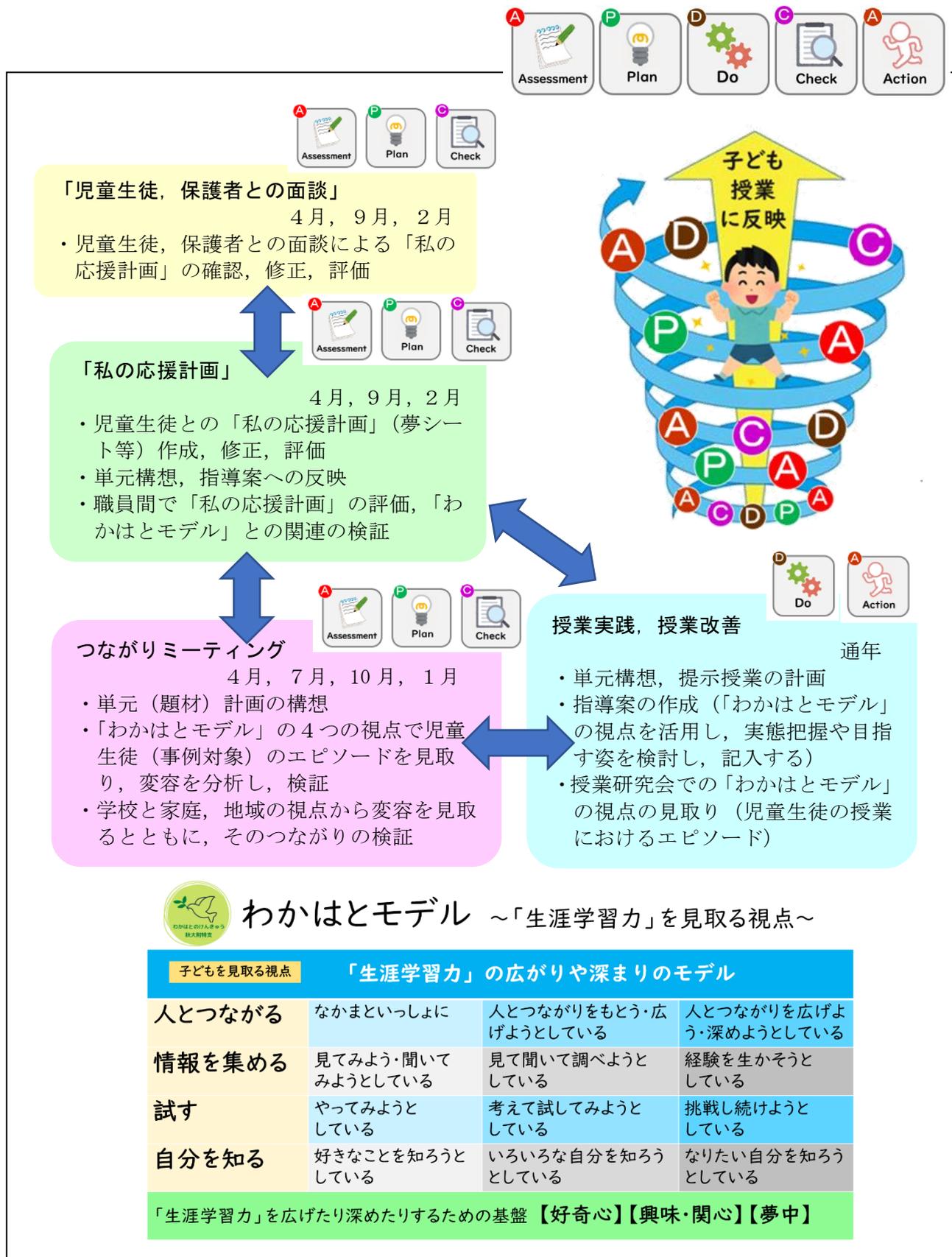


図3 わかはとシステム関連図